

F-32 家庭管理における時間概念の考察 ——家事時間を中心に——
日本女大家政 ○佐藤慶子

戦後の消費生活の近代化・合理化の方向は、家庭管理における時間概念と、むしろ時間量として捉えることに重点をおいてきた。たとえば、家事時間についてみると、家事作業を行なう時間量を減少させる方向で家事の合理化がすすめられてきた。しかし、家事作業の省力化がある程度すすんだ現段階で、改めて家事時間の構造をみつめてみると、時間量として存在するものと、時間帯に拘束されて存在するものとかなり明らかになってきている。そして、消費様式の近代化・合理化は、前者に該当する合理化の働きかけ^とかなり有効であったが、後者に該当する働きかけ^とはなほすすむべきで、合理化が達成されなかったことが明らかである。具体的に言えば、洗たくのような時間量の多くなった家事は、洗たく機や乾燥機によって合理化あることであるが、換気・おむつ交換のような育児にか^となする家事や食事の準備など人間の生理的サイクルに該当した家事は、時間帯に制約されて機械化・合理化に限界があるのである。それ以外にも、消費様式や消費財の特質は、徹底的に時間帯の拘束を家事作業に及ぼしている。

そこで、家庭管理における時間概念として、われわれは、時間量的に把握することのみでなく、時間帯としての概念を明確にし、生活構造を再分析することによって、時間管理の課題の解明を一步前進させることのできるのではなからうか。